



2014年度に実施した その他の学生企画

学生取材班
～岡山大学をSNSで盛り上げよう!～
学生目線で岡山大学の魅力を紹介!取材記事を公式Facebookに投稿し、在校生のみならず卒業生や地域の方々に岡山大学の「今」を伝える。

MACHI FES
「学生の夢をかなえる」がコンセプト。積極的にまちに出て地域の人とかかわる学生を増やす。他大学の学生とも協力し、ゴミ拾いイベントやアートフェス、ホームカミングデー(岡山大学)の空間コーディネートも行う。

おかやまバトン
岡山大学と地域、岡山と被災地をつなぐ支援活動。福島や南三陸で日本舞踊や野球をする子どもたちの1週間程度の合宿を受け入れ、遠く離れた岡山の地にも「今を生きる仲間」がいることを感じてもらう。

社会科教育学研究室
～学生と市民が語り合うイベント「ティーチン岡山」～
学生と市民が語り合うイベント「ティーチン岡山」の開催を核に、大学と地域が連携し、「よりよいまち岡山」を構想、地域に発信することを目指す。

Li☆Luck～七夕祭うえるかむデー～
「大学と地域との交流」「学生間のつながりを広げる、深める」「自己啓発」を目的として、七夕祭りやイルミネーション企画を立案、準備、運営を行う。

文学部社文文3 回生 頭島に架かる希望の橋 PART II
～日生諸島の変化を追って～
2015年4月に完成予定の「備前日生大橋」。この架橋が日生諸島の住民の生活に与える影響を、橋の架かる頭島だけでなく、架からない大府島も含めて考察する。

満月BAR 実行委員会
満月の夜、西川緑道公園で、「おしゃれ」にフードやドリンク、音楽を楽しめる空間を作ること、岡山男子のおもてなし力を高め、にぎわいをつくり、西川の素敵なお店を知ってもらい、若者が自分たちでまちをつくることなどを目的とする。

めめも会
大学生の考える「よりよく生きる」プロジェクト
～地域で語り合い、発信する「死生観」～
命の誕生、救命、療養、看取りの現場におもむき、人間の生と死を見つめ直し、現代社会の課題解決に資する死生観を考え、創出する場の形成を目的とする。

学生トーク実行委員会
～大学生とトークディスカッション in 岡山大学オープンキャンパス～
大学受験を控える高校生に現役の大学生や岡山大学卒業生と交流する場を創出し、自らの進路選択に役立ててもらおう。「カッコいい」人との交流を通して岡山大学と岡山に魅力を感じてもらうことを目的とする。



岡山大学まちづくり研究会

岡山大学まちづくり研究会は少子高齢化や過疎化が進む中山間地域に実際に行き、地域の方々と交流を深めながら「まちおこし」に取り組んでいます。今年で設立2年目。普段は週1回、学内ミーティングを開き、瀬戸内市裳掛地区と総社市山手地区の2カ所を重点地域として活動しています。裳掛地区では2014年度は地域イベントで子ども向けに射的やクイズラリーを企画・実行したり、空き地を開墾して農産物を生産・販売したり、地域の方々の意見や現地調査をもとに地図作りなども行いました。



環境理工学部
環境管理工学科
／藤本 一志

国際医療勉強会ILOHA



国際医療勉強会ILOHAは2012年2月に医・歯・薬学部の学生が中心になって結成。「日本や海外の社会問題」を学びたい、「問題解決に貢献したい」という仲間が集まり、今では医・歯・薬学部以外の学部、他大学・専門学校、学生も参加しています。具体的な活動としては週1回外で研修を行い、勉強会での学びを深めるために国内の方々に伝えるために報告会や講演会も企画。県内の高校を訪れ、学んだことを出張講義の形で若い世代に伝えていく活動にも力を入れています。

法学部法学科
岡田 真理子・花岡 里伸

学生企画は単位認定されるものではないのですが、学生はとてども意欲的。それぞれのフィールドで受け入れられる努力を重ね、地域から期待も膨らんでおり、そういう学生が岡山大学にいることは誇りでもあります。まちづくりや地域活動は生半かな気持ちでは務まらず、一瞬で信頼を失うことも。そういった緊張感も学生に体感してほしいことです。大学とともに地域や経済界、NPOなどの活動も盛り上がり、ウインウインの関係で岡山全体の活性化につながればと思います。



岩瀬泰助教

特集 Special Section

大学 & 都市づくり

地域と協力した魅力的な

岡山大学地域総合研究センターの取り組みをクローズアップ

山川路代助教

地域と大学が協働する「学都構想」の実現を重要ミッションとして2011年に設立した岡山大学地域総合研究センター(AGORA)では、地域住民や自治体、企業、NPOなどと連携したさまざまなプロジェクトを展開している。その1つ、「学都チャレンジ企画」では学生が主体的にまちづくりに参加し、地域と大学をつなぐ「学生企画」を募集。AGORAのサポートのもと、岡山を魅力的にするためのアイデアを実践する学生企画の取り組みを紹介する。



おかやま百年構想

なかへと波及させるべく、第一弾として奉還町商店街からフアジャーノ岡山の魅力を発信する「奉還町フアジストリート計画」を実施。大きなタペストリーに試合結果や順位を表示したり、応援絵馬イベントやイラスト展を開催したりと思いつくままに企画実行しています。



おかやま百年構想は「スポーツでまちなかを盛り上げる」を合言葉に、商店街を舞台に活動しているまちづくりサークルです。



スクールボランティアビューロー学生スタッフ



土曜日はやしま塾で学習支援のボランティアを行う大学生

スクールボランティアビューロー学生スタッフは教員志望や学校・園でボランティア活動をしてみたいという学生にスクールボランティアの魅力や伝え、支援することを目的に、岡山大学教師教育開発センター内に2年前に発足。教員を目指すさまざまな研究科・学部の学生が集まり、ボランティア活動事例集の作成をはじめ、ボランティア活動希望者を対象に、県内の各教育委員会や学校・園からのボランティア活動とのマッチングができるスクールボランティアフェアなどを企画・実行しています。

文学部人文学科 / 大宇根 千宏



スクールボランティアフェア
4月29日(水・祝)開催!!
岡山大学創立五十周年記念館

AGORAの活動紹介

学都研究

大学と地域の連携に関する学術研究を蓄積し、学都の創生に不可欠な情報を発信。「地域と医療」「地域と教育・スポーツ」「まちづくり・地域創生」「地域と環境」を研究の柱として、岡山大学と岡山県が持つ独自性を意識した研究に取り組んでいる。



まちなかキャンパス事業

教職員や学生がキャンパスの外に出て、地域の人と一緒にまち課題を発掘したり、解決策を議論し、実践力を身につける取り組みを展開。魅力ある岡山の創造に貢献するとともに、学都岡山を担う若者の育成を目指す。

まちなかキャンパス 城下ステーション

2012年6月、学外初の地域連携拠点として岡山市北区石関町にオープン。若者の政治参加について考えるアゴラ喫茶や、身近な話題をテーマにした哲学カフェなど、学生や教職員、地域住民らが自由に語り合える多彩な公開講座を開いている。



西川アゴラ

岡山市とまちづくりに関する連携協定を結び、2014年10月、2カ所目のまちなかキャンパスとして同市北区田町にオープン。西川緑道公園界隈を中心にまちなかの魅力アップに携わる地域住民や行政、NPOとともににぎわい創出や課題解決などを話し合っている。



留学生のまちづくり

留学生がまちづくりを経験し、岡山を好きになることで、岡山の友好親善大使を育てる大学と地域の協働の取り組み。スーパーグローバル大学創成支援事業との関連も大きい。留学生は名所や伝統的町並みに触れ、岡山のまちづくりにも参加している。



シンクタンク機能

自治体や経済界などからまちづくりに関する調査・研究を受託し、学術的な視点も加えながら地域発展に資する提言を行う。これまでに西川緑道公園周辺現況調査、岡山駅前イオン出店影響調査などを実施。結果をもとにワークショップや講演会も開いている。



地域社会を変革する人財を育てる 実践型社会連携教育プログラム



岡山大学ではAGORA主導の新タイプの授業方法として2014年度から「実践型社会連携教育プログラム」を試行的に実施している。学生が地域社会に出て、さまざまな人とのかかわりを通して地域課題に気づき、解決策を考え、実践できるカリキュラムを構成。2015年度からは全学的展開を進め、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択された「PRIMEプログラム～世界で活躍できる『実践人』を育成する!～」の柱の1つとしてグローバル実践型教育も構築しながら、社会の持続的発展に貢献できる人財育成に力を入れる。

4つの領域

～ねらいと授業例～

地域と教育再生

岡山では近年、不登校やいじめ、学力低下などの問題が深刻化。教員志望だけでなく、教育に関心のある学生も対象に学校や地域で子どもを見守り、教育支援活動に取り組む授業を展開し、岡山の教育再生を目指す。

2014年度に実施した「地域社会貢献型学習支援活動」では総社市と連携し、学生が家庭に事情を抱える中学生に学習指導を行った。週2回、4カ月にわたってかわる中で両者間には信頼関係が生まれ、中学生は勉強意欲が高まって成績も向上。学生も実践を通して社会的困難に対する理解が深まった。

地域と技術・環境

社会の持続的発展を実現するためには欠かせない、環境に配慮した新しい技術開発の社会背景や動向を現場で体感し、それを自分の問題として考えられるような授業を計画。まさに「ESD（持続可能な開発のための教育）」にもつながるものである。

2014年度に実施した「倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境」では日本有数のコンビナートを擁する水島地区をフィールドとして、学生は地域開発や公害の歴史などを学んだ。行政や企業、住民、地域で



地域と医療

超少子高齢化が進み、地域包括ケアシステム構築が求められる中、いろいろな専門分野からの草の根的な支援が必要。自治体や介護施設、NPO、病院などと連携した授業を展開し、地域住民や現場で働く人たちの声を聞く機会を提供する。

2010年に始まった「多職種連携と地域包括ケアのワークショップ」では、さまざまな専門分野からなる岡山県内の大学・専門学校・学生と教職員が地域で1泊2日のワークショップを実施。真庭市、笠岡市などで計6回行ったが、学生は土地ごとに地域医療や介護のまちづくりが異なり、多面的な分析や協



まちづくり

働の重要性を学んだ。2015年度からはこれを授業科目として開設。また、グローバル実践型教育の開発に向けて、岡山大学インド・コルカタ拠点での旅行医学の授業計画を進めている。

まちづくりに関するさまざまな活動を独自に展開しており、その経験や人的ネットワークも活用して授業を進める。自治体の都市計画に大学の専門知識を生かし、実行や改善などの原動力として学生が参加する方法を考え、まちづくりにかかわることの意義を学ぶ。

2012年度に岡山市から受託した西川緑道公園周辺のにぎわいに関する調査で、学生はイベントのモニタリングや通行量調査などに参加。現場調査でしか見えてこない法則性に気づき、市民のニーズを踏まえたまちづくりについて考える機会となった。2015年度からは「フィールド調査の基礎を学ぶ」を開講する。



◀ AGORAの取り組みについて話す三村聡教授